

呼吸器疾患

科目責任者 仁 保 誠 治

学年 6 学年

I. 前 文

医学に限らずすべての自然科学に通じることであるが、どんな複雑に見える現象でも、その根源には普遍の原理が存在し、共通するメカニズムが働いている。それらの原理・メカニズムを把握して、改めて全体を眺めてみると意外と単純に見えてくることが多い。呼吸系は循環系と異なり閉鎖回路ではなく、外界と接した開放系でしかも循環系と接する。したがって、その構造、生理機能は極めて複雑であり、それらの異常として起こってくる疾患は多彩で、多臓器と関連して起こるものが少なくない。また、呼吸器の究極的な機能が酸素の摂取であるため、その重大な異常は生命自体に影響を及ぼし、治療には緊急を要する。学習者は、このような呼吸系の特徴をよく理解し、基本的なことについては述べることができるようにならなければならない。ここでは、呼吸器疾患の基礎的事項から各論までの知識を理解しやすいように整理した形で講義し、実際の臨床の場で、即、応用できるように講義する。

試験は講義で解説した内容をよく理解していれば解答できる問題を出題する。また、正解を公表するとともに、問題の適切性に関しての意見や設問に関する質問を受け付ける。

II. 担当教員

教授	仁 保 誠 治	内科学 (呼吸器・アレルギー)
病院准教授	武 政 聡 浩	内科学 (呼吸器・アレルギー)
助教	中 村 祐 介	内科学 (呼吸器・アレルギー)
教授	千 田 雅 之	呼吸器外科学
学内教授	前 田 寿美子	呼吸器外科学
准教授	中 島 崇 裕	呼吸器外科学
センター教授	知 花 和 行	日光医療センター 呼吸器内科

III. 学修の到達目標

- 1) 種々の呼吸器疾患の概念、発症機序、病態を理解する。
- 2) 呼吸器疾患の症候や理学所見から鑑別診断に必要な検査をあげられる。
- 3) 治療法を提示し、適切なものを選択できる。
- 4) 重症度や予後を理解し、説明できる。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 (20分) : 1) 肺癌の組織分類と病期分類を理解し、病期別の治療法と予後を概説できるようにしておく。
2) 特発性間質性肺炎の分類と組織所見を言えるようにしておく。
3) 喘息とCOPDの薬物療法について概説できるようにしておく。

事後学習 (30分) : 代表的呼吸器疾患の臨床所見、検査所見、診断法、鑑別診断、治療法、予後などをなにも見なくても明快に説明できるようにする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1) : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
- 2 : ディスカッション、ディベート
- 3 : グループワーク
- 4 : 実習、フィールドワーク
- 5 : プレゼンテーション
- 6 : その他 (空欄 : 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	8	水	5	のう胞性肺疾患	前 田 寿美子	1
2		8	水	6	免疫学的呼吸器疾患	知 花 和 行	1
3		9	木	1	縦隔疾患	中 島 崇 裕	1
4		9	木	2	肺癌	千 田 雅 之	1
5		9	木	4	呼吸器感染症	中 村 祐 介	1
6		9	木	5	呼吸器悪性腫瘍（内科的）	仁 保 誠 治	1
7		10	金	7	閉塞性肺疾患	武 政 聡 浩	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各コマを網羅するように五者選択問題を作成し、原則として60%以上を正答したものを合格とする。
受験資格として、講義回数のうち2/3以上の出席を要する。

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修：7-D-①～⑥、12-E-全項目

総論：VI4-B～G-全項目、VI4-I-全項目

各論：IV1～7-全項目

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決する ことができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験に疑問があれば解説の対応をする。